

2021年度 選出理事候補者一覧

北海道・東北ブロック 定数 2名

(届出順、敬称略)

	氏名	勤務先
1	栗山 進一	東北大学
2	玉腰 暁子	北海道大学大学院 医学研究院

所 信 表 明

1	栗山 進一	東北大学
<p>今ほど疫学が求められている時代はないと考えています。多因子疾患の病態解明と個別化医療・予防の実現に期待が高まっていますが、「Missing Heritability」に代表されるように、思ったほどの成果を得られないでいます。その原因の一つに、大規模データに対する疫学的吟味の不十分さがあると考えています。ゲノムやオミックス情報を用いて解析を繰り返しても、そのデータに対する疫学的な検討は必須です。若い力を仲間とし、「Missing Heritability」の解決に向け、英知を結集していくことが学会の大きな使命であり、そのためには、疫学を取り巻く環境をより充実させ、一層魅力的なものにしていく必要があると考えています。具体的には、①ゲノムコホートの実施とコホート間連携の推進、②バイオバンクという概念の醸成とデータシェアリングの加速、③ビッグデータ解析に資する人工知能解析技術の活用の3点です。学会員の皆さまが大規模なヘルスデータに存分にアクセスし、人工知能解析技術を用いて分子疫学を極め、最終的には公衆衛生学的に社会実装することによって人々の健康向上を実現していくこと、これを日本疫学会から推進していきたいと考えています。</p>		

2	玉腰 暁子	北海道大学大学院 医学研究院
<p>私は疫学会の中で、理事（2000～06年、13年～現在）、監事（2007～09年）の他、J Epidemiol 編集委員、倫理審査委員会委員、広報委員会委員、統計利用促進委員会委員、倫理問題検討委員会委員、利益相反（COI）委員会委員長を務めてきた他、2018年には将来構想検討委員会委員長として、多様性に富むメンバーとともに、現在の疫学会の活動方針を提案しました。最近4年間は、副理事長を仰せつかっています。学会の役割として、様々な立場の研究者が集い、自由に意見交換ができること、さらにはそれが好循環を生み出すことが重要であると思います。一方で、人を対象とする以上、社会倫理的な側面を抜きに疫学研究を行うことはできません。対象者集団との対話を通じて研究への理解を促すとともに、研究成果を地域に還元し施策に反映させることも検討し、真に役に立つ疫学研究を目指すことで疫学会に貢献していきたいと考えています。</p>		

※勤務先の記載は立候補時の申告に基づいています。